

# 地域の素材・人材を生かした生活科における探究的な学び

～学校給食の地元生産者にせまる「きゅうしょくのひみつ」～

山形村立山形小学校 松田 歩

## 1 はじめに

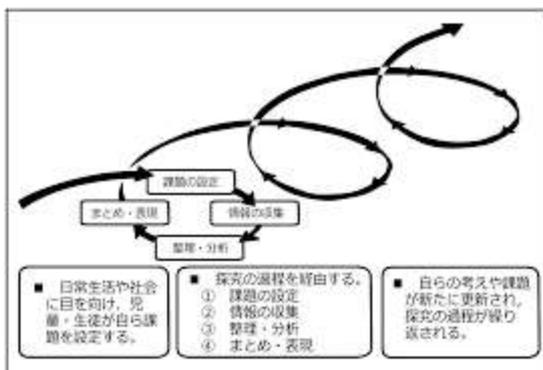
私が勤務する山形村立山形小学校は、「一村一校」の学校である。学校の周りには、畑が広がり、山形村の特産物である長芋をはじめ、アスパラガス、スイカ、リンゴ、ブルーベリーなど多くの野菜・果物が生産されている。保護者の中にも農家が多くいることも本校の特徴である。

今年度、2年生の担任になり生活科で何を取り上げて学んでいこうかと考えていた時、給食室の前に野菜が入ったコンテナがあるのを見かけた。栄養教諭に聞いてみると、給食で使われる食材が届けられたとのこと。また、毎日給食の時に配られる「いただきます」には、今日の献立とあわせて今日の山形村産の食材（地場産物）とそれを届けてくれた生産者さんの名前が書かれている。

子どもたちに、いつも「いただきます」を読んで聞かせるのだが、その日はなんとなく子どもたちに質問を試みた。「今日のだいこん、誰がもってきてくれたと思う？」子どもたちの多くが、「としこさん！」「ようこさん？」とさまざまな生産者さんの名前を挙げていた。子どもたちは、毎日の「いただきます」で、なんとなく名前を覚えていたのだ。生産者、野菜、学校給食・地域の人・ものと子どもたちを結び付ければ、楽しい授業になるのでは。それに、子どもたちは給食が大好きだ。これは、形になるのでは・・・これが、生活科「きゅうしょくのひみつ」のスタートである



## 2 はてな？(問い)⇒調査・驚き・興味⇒つぎのはてな 学びのサイクル



山形小学校では、今年度探究的な見方・考え方を働かせる学びを大事にしている。左の図は探究的な学習における児童の学習のすがたを図に表したものである。この「学びのサイクル」を今回の生活科「きゅうしょくのひみつ」で特に意識して進めていこうと考えた。給食室の前にコンテナに入ったキャベツが置かれている写真を見せて、子どもたちに投げかけるところから始めた。

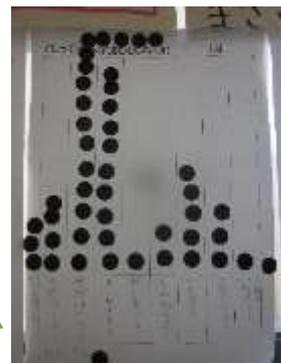
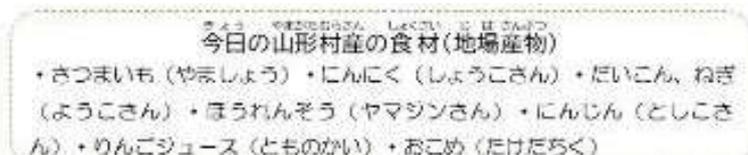
※学習指導要領 総合的な学習の時間編より

- T: 朝、給食室の前に置いてあったのだけど（キャベツの写真を見せながら）、誰がもってきてくれたのだろう。
- A 児: 農家の人
- B 児: いただきますの人?
- T: あー、いただきますにある「だいこん ○○さん」の○○さん?
- C 児: そうかも・・・

このようなやりとりのあと、子どもたちに、届けてくれる生産者さんの名前で知っている人を挙げてもらった。「としこさん」「ようこさん」「くれぬまさん」など何人かの名前が挙がった。「他にもたくさんいると思うよ」「10人ぐらいかな」など、子どもたちは疑問を持ち始めた。

やさいやくだものをとどけてくれる人は、どれくらいいるのだろう？

ここで最初の「はてな？」＝「問い」ができたので早速調査してみることにした。栄養教諭から昨年度1年分の「いただきます」を貸してもらい、2年の算数で学習したグラフづくりを思い出して、グラフ化してみることにした。「いただきます」の地場産の食材名と生産者さんの名前が書いてある部分に注目し、生産者さんを数えてシールを貼っていった。



下に、生産者さんの名前を書き、「いただきます」を見て、その生産者さんが出てくるとシールを貼っていった。まさに、算数「ひょうとグラフ」の学習。高さで多いものや少ないものがわかる」という学びが生かされた。

すると、ほとんどの班で、「としこさん」のところがいっぱいになり、さらに枠からはみ出ってしまった。写真のようにシールが枠からはみ出て、折れ曲がってしまった。「この程度枠があれば、シールは収まるだろう」と私の方で事前に調べず枠をつくったせいである。私の事前準備不足なのだが、この「シールが枠からはみ出してしまう」という事態が、子どもたちに、「またとしこさん!!」「としこさん貼るところない!!」と驚きを倍増する結果になった。授業は大盛り上がりを見せ、次のはてなが生まれる結果となった。

としこさんは、どんな方だろう。としこさんに会ってみたい。畑も行ってみたい。

としこさんが、野菜を届けてくれる日を栄養教諭を通してたずね、本当は子どもたちが登校する前に納品しているところを、子どもたちの学習の時間に合わせていただくことになった。この日は、納品する様子を見るだけだったので、子どもたちはますますとしこさんに興味を持つことになった。



としこさんが長芋をトラックから下ろしている様子を見学する。「としこさんて、こんな方なんだ」「いつも学校のみんなのためにがんばっている。ありがたいな。」「たいへんなさぎょうをほぼ毎日やっているのがすごい。」など、さらに興味が湧いてくる。

そして、次のはてな

としこさんに、いろいろ聞いてみたい。

子どもたちの興味関心が大きく膨らんでいく。私もぜひとしこさんとお話してみたくなった。この地域素材の持つ力の強さを感じはじめた。そして、いよいよ「としこさん」に直接お話を伺えることになる。予めとしこさんに聞いてみたい事をクラスでまとめておいて、お迎えすることになった。

栄養教諭も参加し、としこさんから直接お話をたくさんしていただいた。どのような作物を作っているのか、いつから学校給食に野菜を届けているのか、畑はどこにあるのかなど、子どもたちからのたくさんの質問に心を込めて答えていただいた。担任からは、この後の学びにつなげていくために、どのような思いで学校給食に野菜を届けているのかを、子どもたちに伝えてほしいと事前をお願いしておいた。



授業が終わった後も、としこさんにどんどん声をかけている姿。

この中には、自分の父親が給食に食材を提供している児童もいて、積極的に話しかける姿があった。

「山形小学校の子どもたちには、山形村の物を食べて大きくなってほしい」これが、としこさんの思いである。

#### 【としこさんに聞いてみて思ったこと（学習カードふりかえりより）】

- ・としこさんは、たいへんでいそがしいのに、いっぱいもってきてくれるのがありがたいと思った。
- ・たいへんだけど、いろいろなときょうりよくしてとどけているのは、としこさんはありがたいというきもちがあるのかなと思った。
- ・としこさんがこんなにがんばっているのすごいと思った。
- ・としこさんがいっぱいやさいもってきてくれて、ありがたいなと思った。
- ・としこさんは15しゅるいも学校にとどけていることがわかった。38年前からやっているってすごい。

子どもたちは、ますます生産者さんに興味を持つようになってきた。他にもたくさんの生産者さんがいることは、グラフ作りで知っているのですが、ほかの生産者さんにも会えないかな？会いたいと思うようになってきた。なので、次のはてなは・・・

#### ほかの人（生産者さん）にも会って、聞いてみたい

そこで、栄養教諭に連絡を取ってもらい、給食に味噌やケチャップ、リンゴゼリーに使用するリンゴジュースを提供してくださる、「加工友の会」の窪田さんに学校に来ていただき話を聞かせてもらった。ここでも「山形村の子どもたちには、山形村でとれたものを使ってできたケチャップやみそを食べてもらいたい。」という話を聞かせてもらった。子どもたちからもたくさん質問をする姿があった。

#### 【友の会の方に聞いてみて思ったこと（学習カードふりかえりより）】

- ・くぼたさんたちは、山形村のやさいやくだものを、むだにしないようにいろいろなものにかえて、おいしく食べれるようにしてくれているんだなと思った。
- ・あんなにあついところをみんなでいっぱいがんばってつくってくれているのがすごい。（ケチャップを作るときに、瓶を熱湯で煮沸する。汗をすごくかくという話を聞いて）
- ・友の会の方がすごくがんばってくれるので、わたしはおうえんしたい。
- ・とれたやさいをむだにしない、子どもたちに食べてもらいたいという思いがつよいんだなと思った。

友の会の方が作っているところを見たい。

「作っているところを見たい」という思いも生まれ、時期の関係からリンゴジュースを作るところを見せてもらった。リンゴジュースを作る際に、傷がついてしまったリンゴを使っていること。搾りかすをもう一度別の機械にかけてさらに絞ること。搾りかすはリンゴ畑にまいて肥料にすることを教えていただいた。最後にジュースも飲ませてもらった。絞ったリンゴとビタミンCだけしか入っていないリンゴジュースは、自然な甘さと風味が感じられ、「いつも飲んでいるものと違う」と子どもたちも大喜びだった。



【ジュース作りをみて思ったこと（学習カードふりかえりより）】

- ・友の会のみなさんは、おいしくたべてもらう、くだものややさいをむだにしないということを、思いながらやっているんじゃないかと思いました。
- ・きゅうしょくの先生に、だいにざいりょうにしてほしい。
- ・友の会の方は、りんごをむだにしないでぜんぶつかえるようにくふうしてりんごをつかっているんだなと思った。

子どもたちは、リンゴをむだにしない工夫を「ぐるぐるまわっている」と表現していた。ここで行われている循環型農業は、社会科の学習などにつながっていくなと感じた。農業におけるSDGsの取り組みを学ぶことができた。

その後、子どもたちがずっと願っていた「としこさんの畑に行ってみよう」が実現する。山形村の特産である長芋の収穫の時期がきたので、収穫の様子を見学させてもらえると、栄養教諭を通して連絡を頂いた。特産の長芋がどのように収穫されているか実際の様子を自分の目で見てみたい。子どもたちもやっとなしこさんの畑を見に行けると見学を心待ちにしている様子が見られた。

後ろの小さなトラクターのような機械で、掘った後の土を柔らかく耕す。みんなは、これで長芋を掘るとばかり思っていたので驚いていた。長芋は、長い棒を土にさして1本ずつ人の力で収穫していく。寒い中汗をかきながら掘っていく様子を見せてもらった。この畑では1畝で約400本の長芋が収穫できるそう。



【収穫の様子を見て思ったこと（学習カードふりかえりより）】

- ・前はのこしてたけどこれからはがんばって長いものをちゃんとたべようと思いました。
- ・これからもおいしい長いもおねがいします。

名前だけしか知らなかった生産者さんが、目の前で野菜を届けてくれたこと。さらに自分たちの前で話をし、質問に答えてくださった。作っている様子や収穫する様子を見せていただいたことで、給食に関わる人に直接出会う経験を持った。子どもたちの興味関心が膨らんでいく様子を感じることができた。「人・もの・こと」から学んでいこうとよく言われるが、今回の学びでは「人・もの・こと」は独立しているのではなく、給食という「こと」の関心から始まり、野菜という「もの」に出会い理解を深め、それに関わる「人」に出会うことで、より深い学びへと発展していった。「人・もの・こと」は三位一体の関係にありそのつながりの中で豊かな学びが生まれるのだと改めて実感した。そして、一つ「はてな？」がうまれ動き出すと、膨らんでいきながらさらに前へ進んでいくのだということも感じた。

一通り生産者さんにお会いする学びが済んだところで、子どもたちは、学びの足跡の模造紙を見ながら、一つ大事なことに気づく。

山形村の子どもたちに、山形村の物を食べてもらいたい。野菜のおいしさを知ってもらいたい。

お会いしたどの生産者さんからも、このような話が出てきたことに子どもたちは気が付いた。そして、このことを全校のみんなやおうちの方に知らせたいと思うようになってきている。学びの集大成として、発表をして「きゅうしょくのひみつ」を知ってもらおうと現在頑張っているところである。

【学習してきたのふりかえり（学習カードふりかえりより）】

- ・「どんな思いでとどけているのですか？」というしつもんをして、せいさんしゃさんの人たちは、ほぼおなじ思いでとどけていて、やさいのことだけではなくみんなのことを思っていたんだと思った。
- ・みんなががんばって作っているからのこしたくない。としこさんや友の会ががんばっているから、学校からおうえんしたい。
- ・せっかくはたけでとっただいじなやさいだからのこさず食べる。
- ・これからは作ってくれた人のことを思っごはんをたべようと思った。のこさず食べる。
- ・友の会みたいにおいしいリンゴジュースを作りたい。
- ・としこさんてこんなことをしてるから、ぼくもやりたい。
- ・としこさんみたいにいっぱいやさいをそだてたい。
- ・あんぜんな学校きゅう食をまもる会になってみたい。
- ・みんなががんばっているし、じぶんもがんばんなきゃ。べんきょうがんばりたい。
- ・こうゆうべんきょうがでてきたとき、2年のきゅうしょくのひみつをおもいだしてべんきょうをすすめていきたい。



友の会の窪田さんに、お礼の手紙をわたす様子。誰が渡すかで、大ジャンケン大会になった。多くのことを学んできたことで、生産者さんに対する強い思いがあるのだろう。

このように、生産者さんの思いがいっぱい詰まった山形小学校の給食だが、

「令和6年度学校給食文部

科学大臣表彰」を頂いている。これは、まさに子どもたちが学んできた、地元の食材使った給食を食べた子どもたちが、地元で成長し、地元への思いを深めていくというサイクルが確立していることが表彰されたのだ。それを伝えたところ

「え〜！すごい」とびっくり。（昨年度、全校には紹介しているのだが、当時1年生だった子どもたち。よく覚えていなかったみたいだ。）校長室の前には賞状が飾られているが、盾は今年度届いたとのこと。栄養教諭から、「全校に発表するときにこれも一緒に紹介してください」とお願いされた。子どもたちは、盾をみてまたまたびっくり。「山形小学校の給食って本当にすごいんだ」という思いをさらに持つことができたのではないだろうか。「きゅうしょくのひみつ」の学びがあったからこそ、表彰状と盾のすごさを感じることができたのだろう。

栄養教諭に賞状のことをおしえてもらう。「すごい」



### 3 栄養教諭との関わり

今回「きゅうしょくのひみつ」を学ぶにあたって、栄養教諭の存在がとても大きかった。多くの生産者との連絡、見学する際の日程調整を一手に引き受けてくれた。また、必要な資料の用意、時には授業と一緒に入ってもらったこともあった。このことは、担任として大変ありがたかった。

子どもたちと栄養教諭の関わりや献立への興味もこの学びを通して増えた。気に入った献立のレシピを教えてほしいと、栄養教諭のところへ行く姿がたくさん見られた。実際に家でも作ってみたという話もたくさん聞くことができた。今回は生産者さんとの関わりを特に大事にしてきたが、この学びをいかし、今後は食育の面でも、より一層栄養教諭と連携しながら授業を行っていくことができると思う。生産者さんとの強いパイプをもち、給食・栄養のスペシャリストである栄養教諭とタッグを組むことで、多様な学びができるのではないかと感じた。山形小学校では、家庭科の学習で栄養教諭とTTを行うことも多いが、低学年においても生活科や特別活動などで栄養教諭と協働する機会が今後さらに増えていくとよいと思った。今回の学びを通して、新たな気づきを得ることができた。

### 4 「安全な学校給食を守る会」について

「安全な学校給食を守る会」の方々が、給食に地元食材を届けてくれている。としこさんも友の会の窪田さんもこの「守る会」のメンバーだ。子どもたちに話をしてくれた「山

形村の子どもたちに、山形村の物を食べて大きくなってほしい」という思いで安全な食材を届けてくださっている。子どもたちが最初に会ったとしこさん（大池俊子さん）が、当時の山形小学校の栄養士から「地元野菜を供給できないか」と相談され、育てた野菜を届け始めたのが始まりだそう。ジュース作りを見せてくれた「友の会」の窪田さんは、昨年度から会の代表を務めているとのこと。（詳しくは令和7年10月16日の信濃毎日新聞に「山形村の食材で安全な学校給食を」という記事が載っている。ぜひ読んでいただきたい）

<u>「いただきます」にのる 名まえ</u>	<u>生さんひんもく</u>
としこさん	にんじん・ごぼう・だいこん・ながいも・じゃがいも・キャベツ・ねぎ・なの花・チンゲンサイ・なす・ピーマン・とうもろこし・ふき・おおば・モロッコインゲン
ようこさん	にんじん・ごぼう・じゃがいも・ねぎ・赤玉ねぎ・アスパラ・かぼちゃ・さくらんぼ
しょうこさん	大こん・玉ねぎ・にんにく・キャベツ・ピーマン・かぼちゃ
よこみずさん	こまつな
ヤマジン	トマト・ほうれんそう
こばやしさん	レタス・キャベツ・はくさい・ほうれんそう
いもっこ	とうもろこし・ゴーヤ・スイカ・りんご

※友の会から頂いた資料をもとに、子どもたちに配った資料の一部。友の会の方がどのような野菜を届けてくれるかをまとめたものである。

この1年間の学びは、この「安全な学校給食を守る会」の方々の支えがあったからこそ実現したものである。子どもたちを支えてくれる素晴らしい方々のおかげで、子どもたちは1年間学びのサイクルを途切れることなく回し続けることができた。魅力的な素材との出会いが1年間にわたる学びを力強く支えてくれたのである。

## 5 終わりに

山形小学校では、「学びのサイクル」を回していくことを大事にしてきた。学びの出だしの一步目は自分が背中を押した部分があったかもしれないが、このあとには子どもたち自身が興味を持ち、はてな（問い）を抱きながら、主体的に学びを進めていったと感じている。それは、素材・人材に大きな魅力があったからだと思う。

今回私は、子どもたちと積み重ねてきた学びをぜひ残しておきたいと強く感じた。山形村が誇るすばらしい素材・人材を私は自慢したくなったのだと思う。子どもたちにも、山形村を誇りに思い、給食のことを自慢する人になってほしいと願っている。

最後に、今回の学びに関わってくくださった多くの方と、楽しい学びを一緒に行うことができた子どもたちに心から感謝したい。そして、これからも美味しく楽しく給食を味わっていきたいと思う。

お話に来てくれた生産者さんと！ハイチーズ

